

# 通信小海

「罪人を招くために来たのです」

牧師 荒初 あらもみ 実 まこと

キリストは「正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです」と言われました。どこの世界に自分から正しい人ではなく、罪人の所に行く人がいるでしょうか。通常、人は危険な場所や人を避けようとするものです。しかし、キリストは社会から疎外されて生きていた人々の所に自ら足を運ばれました。

キリストが言われた「正しい人」とは、自分を義人であると思っている人々のことです。そして、「罪人」とは、自分が罪を犯している罪人であることを自覚している人々のことです。「自称義人」も「自称罪人」も救いを求めて

## 【今月のみことば】

「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」  
マタイの福音書 9章13節

ご自身のもとに来るように招かれたのです。しかし、自分を正しい人であると思っていた人々はその招きを拒み、キリストが罪人と一緒にいることを非難しました。キリストはそんな彼らに言われたのです。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。」

ご自身を医者にとえられたキリストは、誰が病人であるかをご存知でした。「自称義人」は、キリストの言われた病人は罪人のことを指していると考えました。しかしキリストは、自分を正しい人間であると思っている人々もまた、「医者が必要とする人」であるとおっしゃったのです。

自分のうちに病があることを自覚している人もいれば自覚していない人もいます。自分は健康だと思っていなくても、実は病を抱えている場合があるように

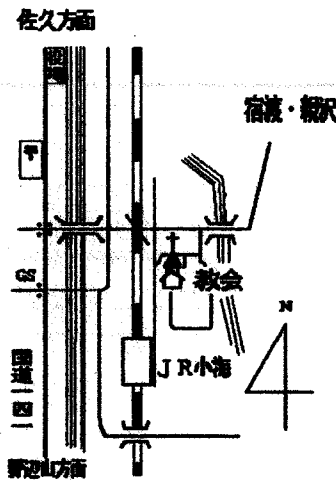
日本同盟基督教団 小海キリスト教会

南佐久郡小海町大字小海四三五・二七

〒三八四・二〇二 TEL 0267・88・7169

〒振替 00530・0・61683

## 見晴台の教会へどうぞ



## 集会あんない

日曜日 朝礼拝 午前十時から十一時半  
夕礼拝 午後八時から九時

金曜日 聖書の学び 午後八時から

\*初めての方も安心してお越しください。  
\*個人的な聖書勉強やご相談にも遠慮なくお越しください。

\*当教会は、エホバの証人とは一切関係ありません。

「自分は人に指摘されるような罪を犯したことはない」「神の助けなど必要ない」と思っているも、聖書の基準・真理のみことばの光に照らされる時、いかに罪深く、まさに神の助けを必要としているかが分かるのです。そして、自分が自己中心な者であること、人を裁いたり、妬んだり、憎んだりすること、陰口や悪口、敵意や欲深い心：罪の病が確かにあることに気づかされます。

すべての人は、間違いなく「罪人」なのです。この「罪人」である私を、あなたを、罪の支配から解放し、傷ついた心を癒し、滅びの中から救うために、キリストは私たちのところへ来て、招いて下さいました。ただ素直にこの招きに応え、自分の心にお迎えしますと祈る時、主は喜んであなたの心の中に入れてくださいます。

キリストは言われました。「わたしは、戸の外に立ってたたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは彼のところに入って、彼と

ともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」

## 連載

### 信仰の眼で読み解く絵画

岡山 敦彦 【著】

#### 第三章 レンブランド

〜絶頂期後に信仰に目覚めた画家〜

⑥



レンブランドは一六四七年から内縁の妻ヘンドリック・エ・ストフェルスと暮らすようになります。彼女は家政婦として雇われましたが、やがて内縁の妻となります。彼女は献身的にレンブランドに仕えた女性でした。また彼女はキリスト者で、貧しい家庭の田舎娘でしたが、慎み深く優しい性格でした。彼女は名声を失いつつあったレンブランドを精神的にも信仰的にも支えた女性です。彼が晩年に真の聖書画家として功績を残すことができたの

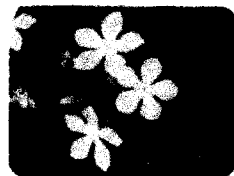
は、彼女の陰の支えがあったからだと言っても過言ではありません。レンブランドがヘンドリック・エ・ストフェルスと出会って結婚することがなかったら、「放蕩息子の帰郷」をはじめとした彼の名画と呼ばれる晩年の聖画は描かれることがなかったでしょう。

彼は幼いころ母親から聖書の話聞いて育ちました。画家となつてからも聖書を読んで、絵画のイメージを膨らませて、素晴らしい聖画を数多く描きました。しかし、それらの絵画は彼の生まれつきの才能と依頼主の要求を満足させるために描かれたものでした。それらの絵画を描くことで、彼はこの世の富と名誉と上流階級出身の妻とを手に入れました。一方、まことの信仰、まことの神、まことの救い主であるイエス・キリストからますます離れていきました。絵画を描くための仕事上の聖書知識の信仰から、まことの信仰へと導いたのがヘンドリック・エ・ストフェルスです。

〈続く〉

## ニチニチソウ

日日草・日々想



カメレオンとヒヨウ

動物の体は色とりどりて模様も美しく、様々な不思議を秘めています。自分の姿を隠して敵から身を守る防衛機能として、体の色を変える（と見える）動物と言えばカメレオンです。カメレオンのことを考えると、「郷に入りては郷に従え」という言葉が思い浮かんできます。英語の語源は、聖アンブロシウスが弟子のアウグスティヌスに与えた言葉と言われ、似たような慣用表現が世界中にあります。日本の文化の中では色濃い考え方であると言えるでしょう。

確かに、世の中で生きていく時には必要な考え方・術なのだと思います。

けれども、カメレオンのように自分の色を持たずに、周りに合わせて色を変えていくというのは、ただ同調し、迎合しているだけのようにも思えます。

それに対してヒヨウは、一見あれだけ派手で目立って見える体の模様も、草むらの中に入ると景色を損ねることなく馴染んで、その場にいることができると、このヒヨウの姿を思い浮かべると、ある意味で聖書に語られているパウロの言葉を体現しているようだなと思えるのです。

「郷に入りては」の表現と似て非なる言葉が聖書にあります。それは「ユダヤ人にはユダヤ人のように」律法を持たない者には律法を持たない者ようになりました。というものです。この言葉は「何とかして幾人かでも救うため」すべてのことを福音のためにしています。という宣教への情熱に基づいたもので、「この世と調子を合わせてはいけません。」と諭したパウロの言葉に、キリスト者としての在り方を曲げることなく貫いたことを確認できます。

「大切なことを伝えたい」という思いと行動は、相手の文化の中に身を置き、その文化の中で生き、そして、相手と同じ土俵に立って、相手の心や感情を理解し、共感していく中で、お互いの信頼関係を築いていくことを土台とするものなのだということを教えられます。

どんなに「素晴らしいこと」「知ってもらいたいこと」だとしても、主張ばかりして場を乱したり、相手の気持ちを損ねたりするようでは、なかなか受け入れられません。当然、相手に合わせてばかりいたら、本当に伝えたいことの半分も正しく伝わらないでしょう。強引でも曖昧でもない在り方で、かつ毅然とキリストの愛を伝えていったパウロの姿は、カメレオンではなくヒヨウののだと、一人思い浮かべたりしていました。私もヒヨウのようにキリスト者としてののはっきりしたカラー・模様を保ちながら、この地に馴染み、受け入れてもらえる在り方・伝え方を模索して生きていきたいと思えます。



☆Welcome☆

ゴスペルコンサート

松原湖バイブルキャンプの秋の特別企画として、ゴスペルコンサートを行います。ミュージックゲストとして中山栄嗣さんをお招きしています。

中山さんは、多くのミュージシャンと共演し、2015年には日本武道館での公演を果たしました。2018年8月に初のソロデビュー曲を配信開始し、アマゾン売れ筋ランキングで第一位を獲得。今日本で最も熱く注目されている実力派ゴスペルシンガーです。入場無料ですので、是非お越しください。

《日時》 11月24日(土)

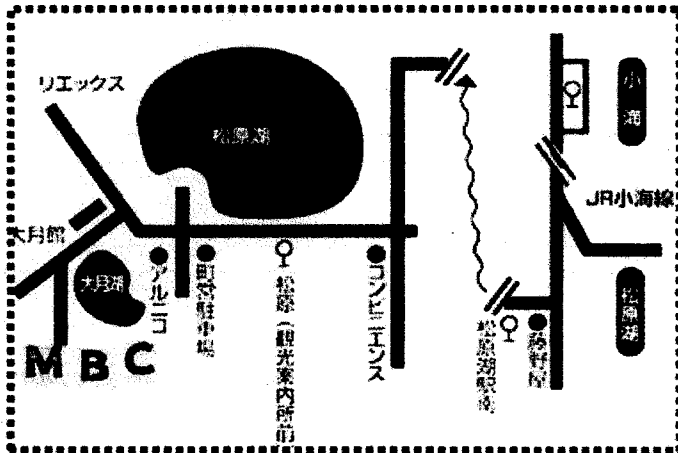
開場 午後1時半

開演 午後2時

《場所》松原湖バイブルキャンプ

南佐久郡小海町豊里4912

☎0267-93-2347



ゲスト 中山栄嗣さん

## 生活困窮者支援

山谷(やま)農場

収穫感謝祭にお越しください

食料支援先の関係者を招いた食事を会を開きます。皆様のご参加をお待ちしております。

◆十一月十日(土) 午前十一時半〜午後三時半

◆松原湖バイブルキャンプ場

小海町豊里4912

◆参加費 無料

《連絡先》 藤田 寛

☎ 090・1436・6334

FAX 042・786・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

《物資送付先》 小海キリスト教会、または、南牧村社協へ。〒384・1302 南牧村大字海ノ口966・15 南牧村社会福祉協議会 気付 山谷農場

\*着払い送付はご遠慮ください。

\*土曜日の配達指定をお願いします。

山谷農場事務局(藤田) 小海町芦谷ヒルサイドコーポ一〇二号室 毎週土曜

カンパ: 下振替〇〇二四〇・四・五三七九六

